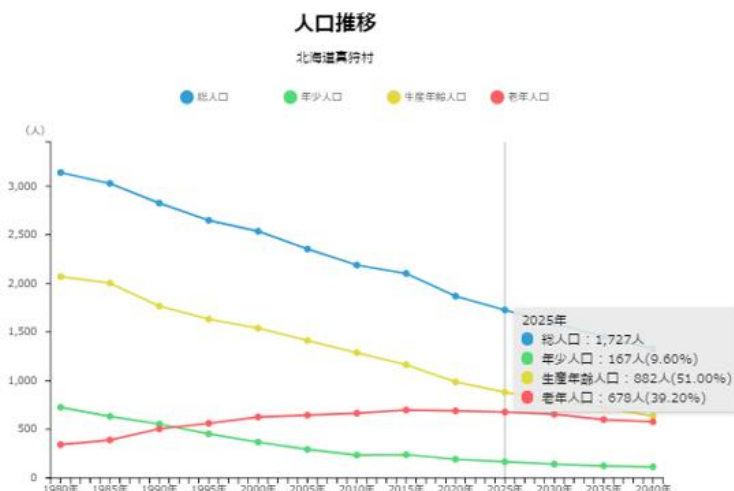
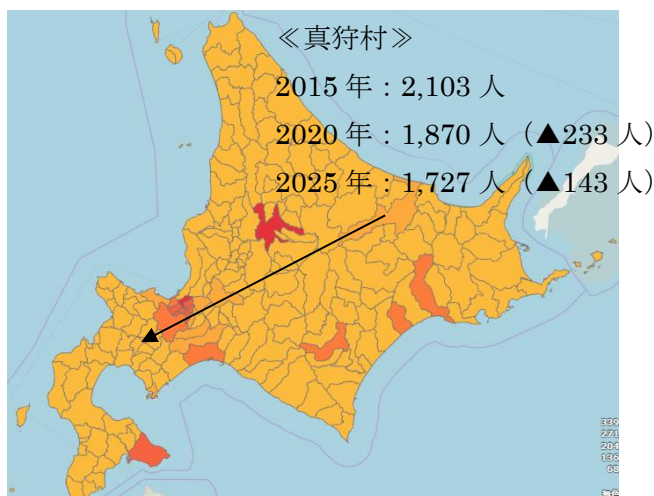


1.人口推移・構成

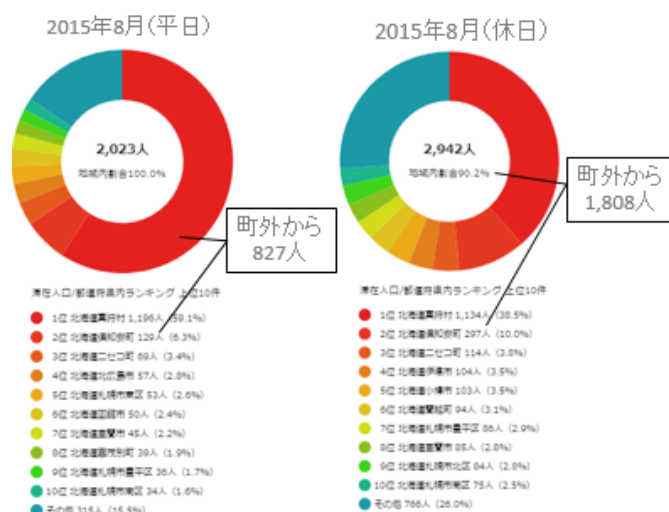
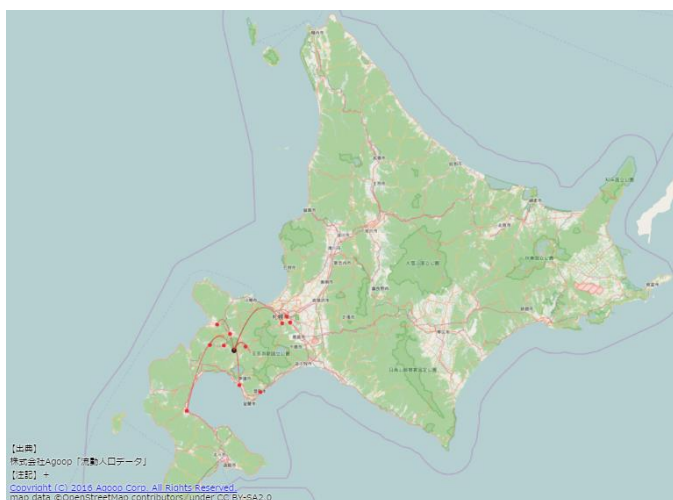


人口は減少傾向が続いており、2015年から2025年までの10年間で376人の人口減が見込まれている。中でも、生産年齢人口の減少は顕著で、老年人口の増加も相まって高齢化率は高く推移している。

当村を商圏として経営計画を策定する際には、高齢者向けサービスや商品のラインナップを検討するなどの配慮が必要となる。

また、少子高齢化（人口減少）に伴う売上の減少や、会員事業所の高齢化に伴う後継者不足による廃業が今後益々予測されることから、創業・事業承継支援が重要となると考えられる。

2.交流人口



当村への来方は8月がピークで、平日には827人、休日には1,808人が来訪している。

来訪者の内訳は、隣接する倶知安町が最も多く、次いでニセコ町からの来訪が多い。

石狩管内 札幌市や北広島市の他にも、胆振管内 室蘭市や、渡島管内 函館市からの訪問も見受けられる

3.地域のカネの流れと経済循環

生産：3次産業が最も付加価値額の高い産業（30億円。全体の41.6%）。次いで、1次産業が25億円である（全体の34.7%）。このことから、**1・3次産業が地域での強みであることがわかる。**また、2次産業の雇用者1人あたりの付加価値額を高めていくことが重要である。

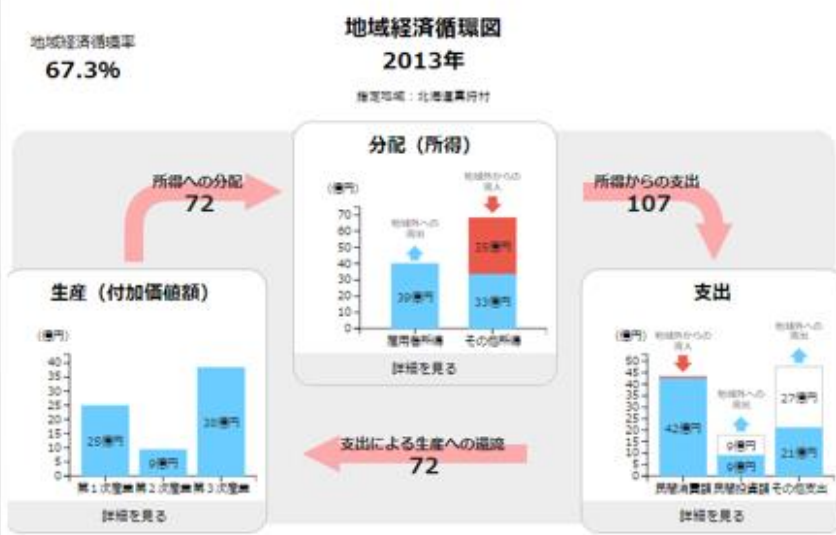
分配：雇用者所得の地域外への流出は無いものの、「その他所得」では地域外からの流入が35億円ある。

支出：民間投資、「その他の支出」の合計36億円について、地域外の企業から購買・発注している。

所得>生産であることから、当村の経済は自立していないことがわかる。

近隣の他町村に比べ、雇用者所得流出入額・民間支消費流出入額がともに低い。

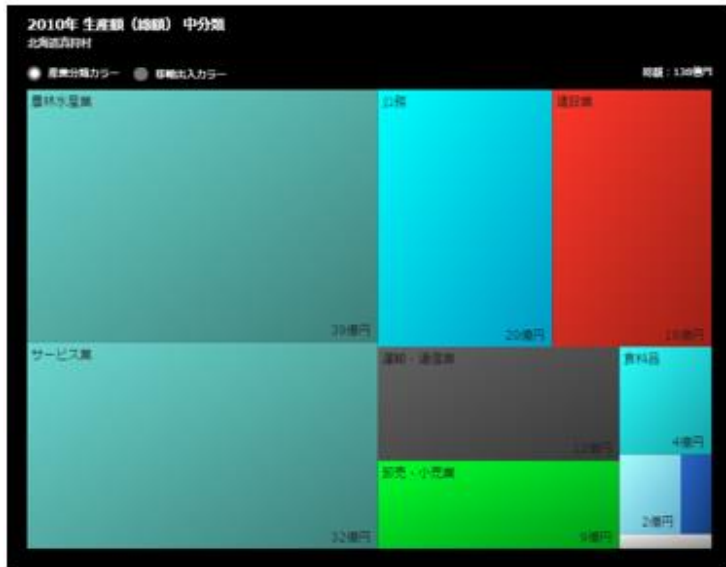
【図表3-1】地域経済循環マップ>地域経済循環図



	雇用者所得 流出入額	民間消費 流出入額
真狩村	0億円	+1億円
蘭越町	+7億円	▲14億円
ニセコ町	▲1億円	+7億円
留寿都村	▲17億円	+1億円
喜茂別町	+4億円	0億円
京極町	▲5億円	+19億円

4.地域産業の構成

【図表4-1】地域経済循環マップ＞生産分析＞地域内産業の構成



【図表4-2】自治体比較マップ＞事業所数、従業員数(事業所単位)
(※ダウンロードデータを再編加工)



地域の生産額は【農林水産業】が39億円(全体の約28%)、次いで【サービス業】が32億円(約24%)を占めている。

また、漁業の事業所数・従業員数がほぼ無いことから、中でも農業・林業が当村の基幹産業であるといえる。

また、事業所数・従業員数は卸売業・小売業が最も多い。

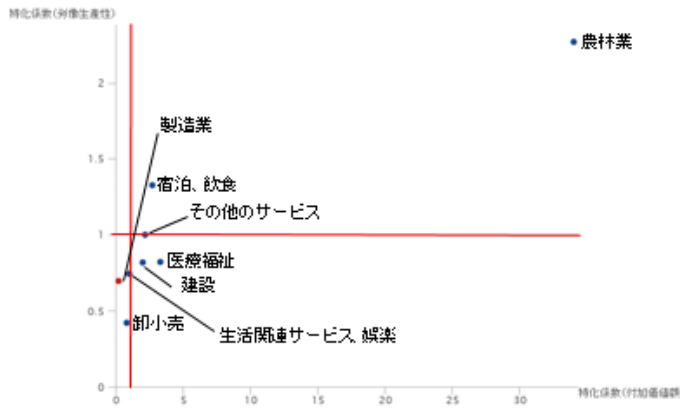
よって、農産物の卸売・小売が主たる産業であるといえる。

5. 地域産業の強み

【図表5-1】産業マップ>稼ぐ力分析>グラフ分析>散布図

特化係数（付加価値額） x 特化係数（労働生産性）
2012年

指定地域：北海道真狩村

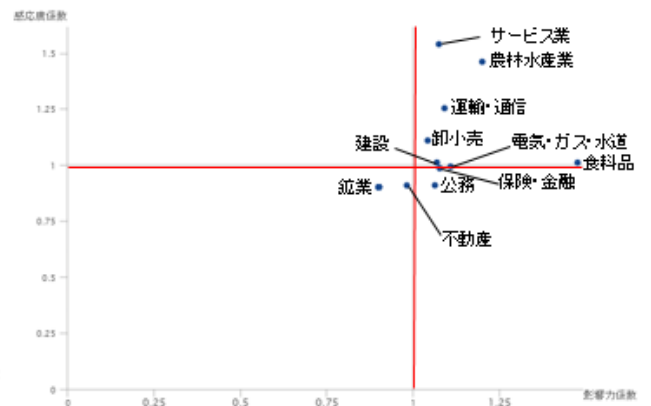


【図表5-2】地域経済循環マップ>生産分析>影響力・感応度分析

影響力・感応度分析（産業別）
2010年

指定地域：北海道真狩村

指定基準：すべての大分類>すべての中分類

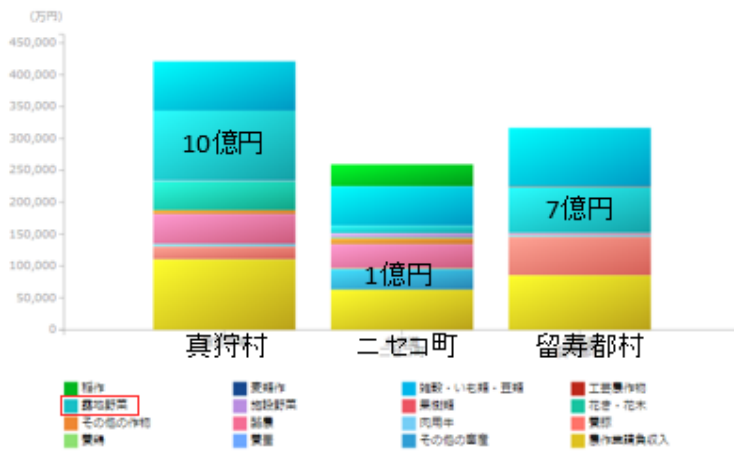


農林業は労働生産性および付加価値額の最も高い産業であり、当村において最も稼ぐ力のある産業である。また、その他の産業に与える影響・受ける影響も大きい。

【図表6-1】農林水産業マップ>農業花火図>縦棒グラフで比較する

農業部門別販売金額（総額）

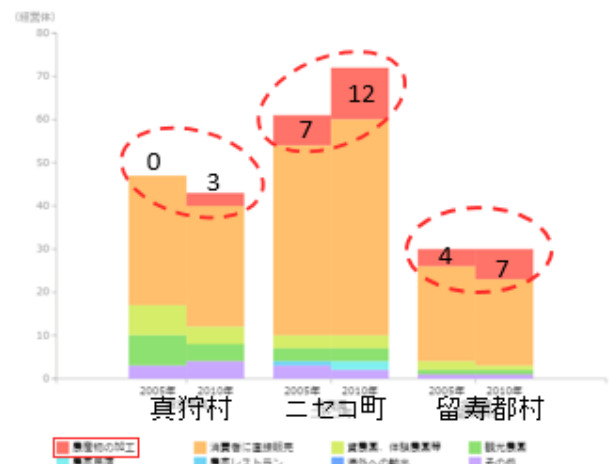
指定地域：北海道真狩村



【図表6-2】農林水産業マップ>農業者分析

農業生産関連事業の実施状況（経営体数）

指定地域：北海道真狩村



また、農業部門別の販売金額では露地野菜販売が多数を占めていることから、農商工連携・6次産業化を活用した特産品開発による新たな産業の創出により更に付加価値額を高めていくことが重要。

6.観光スポットなど状況

当村には主な観光（レジャー）スポットとして、「羊蹄山自然公園」（99回）、「羊蹄山の湧き水」（55回）、「道の駅 真狩フラワーセンター」（76回）などがある。

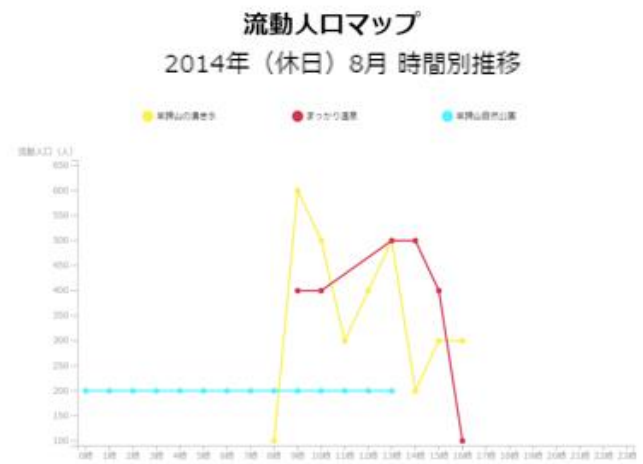
羊蹄山を挟んで反対の方角に位置する、同じく名水スポットである京極町の「ふきだし公園」の訪問回数が278回に対し、「羊蹄山の湧き水」は55回とまだまだ観光客は少ない状況である。

最も訪問数の多い「羊蹄山自然公園」に関して、千歳市、洞爺湖町、苫小牧市、伊達市など胆振地域からの来訪や、長万部、函館市の渡島地域からの来訪も目立つ。

【図表9-1】観光マップ>目的地分析



【図表10-1】観光マップ>メッシュ分析(流動人口)

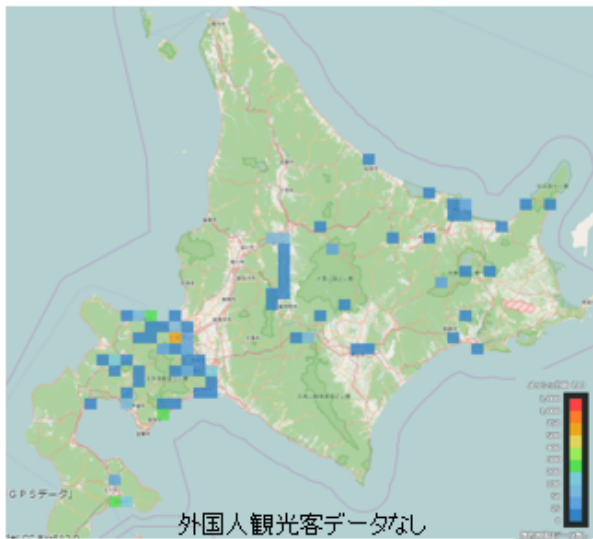


各スポットに共通して言えるのは、春から夏にかけて訪問数が増加し、8月がハイシーズンとなり、秋から冬にかけて訪問数が落ち込んでいくことである。

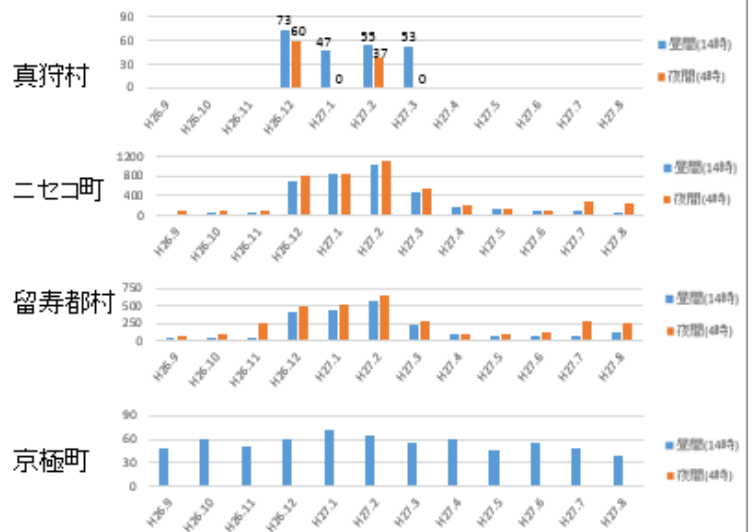
また、時間的ピークは昼過ぎ頃で、16:00以降(夜)は急激に人が減る。これは宿泊施設が少ないことに起因すると思われる

7.外国人観光客 状況

【図表11-1】観光マップ>外国人メッシュ分析



【図表11-2】観光マップ>外国人滞在分析（※再編加工）



一方で、外国人観光客の滞在数は12月～3月にピークを迎える。

隣接するニセコ町、留寿都村も同時期にピークを迎える。

当村との違いは、日中よりも夜間の滞在数が多いことである。このことから、羊蹄山麓を周遊する外国人観光客が一定数いるが、近隣の町村に宿泊・滞在していることがわかる。

国内観光客の訪問が落ち込む冬期は、外国人向けのおもてなし、宿泊施設の確保などによりニセコ町や留寿都村から当村を回遊し、滞在するような仕組みを考案することが重要となる。